2004 TOKYO 元気人

『楽しいこと』の中に未来が

ゴミ拾いボランティア企画

●●● 10代の女性コンビ

昨年十二月、渋谷区の代々木公園からJR渋谷駅前に通じる「公園通り」を約七百人の若者がそろいの白いトレーナー姿で一斉にボランティアのゴミ拾いを行った。金髪にピアスをした男の子や、今風のファッションに身を包んだ若者が、一見、不釣り合いな大きなビニール袋をかかえ、植え込みの下をのぞき込んではゴミをかきだしている。この日は小型トラック三台分のゴミが集まった。

ゴミ拾いは「人々を元気にしよう」と、グラフィックデザイナーの水谷孝次(五三)が主宰するメリープロジェクトの一環。中心になったのは、十代の二人の女性だ。

その一人、玉田海緒(ふみお)(一九)は慶応大学一年。この四月に札幌市の高校から上京したばかり。渋谷に二十のコースを設定、分刻みのスケジュールを作り、参加者に説明した。

「(ゴミ拾いは)とっても楽しかったです。思った通りに進んだからかな？　ホントは進まなかったんだけど(笑)」

入学後、大学の先輩に「楽しいことがしたい」と相談し、このプロジェクトを知った。

大学での専攻は「ボランティアを科学しよう」。だが、ゴミ拾いは大学の授業とは関係ない。では、なぜ？

「楽しいから」

実家近くのラーメン店に入ったときに、威勢のよい店員が客を元気にしていることに感激した。もともと人の心に触れることがしたかった玉田は、「人を元気にすること」に喜びを感じるようになったという。

◇　◇

札幌市に隣接する北広島市の中学から、札幌市内の高校へ進んだ。進学校ながら自由な学風と、個性的な級友たちに驚いたという。高校二年のときにニュージーランドに留学。大学は英国の大学に進みたかったが、「留学前に日本の大学をでた方がいい」という教師の勧めで慶大に進んだ。

〝何でもあり〟で人々に活力発信

「東京は何でもありですよね。何でもできる。成田空港にも近いし。札幌では大通り公園の一画くらいしか活動する場所がなかったのに…」

大学では十一月の総選挙を前に仲間と候補者を招いて討論会を企画した。

「こんど六本木ヒルズで泥警(=建物等を使った鬼ごっこ)をやろうって企画してるんです」

学生生活は公私ともに、スケジュールがいっぱいだという。

◇　◇

玉田とともにゴミ拾いを進めた和田あずさ(一八)は文化女子大の服装学科で学んでいる。若者の笑顔を撮影する企画で玉田に声をかけられたのが、プロジェクトに出合ったきっかけだった。

埼玉県の高校に通っていたころは、生徒会活動をやっていた。

「生徒会なんてボランティアみたいなものですよ」

人のために何かをする、というのに違和感はないけれど、特にボランティアをやりたい、という訳ではない。活動の魅力はやはり、人との出会いだという。

「人生あと七十年。地球上に大勢の人がいて、そのうち何人に会えるだろうと思うんですよ」

企画を進める間に、人に辛(つら)な言葉を言われて落ち込むこともあったが、「それも生きているから感じられることですから」と笑う。

◇　◇

二人の監督役でもある水谷はいう。

「われわれからみると宇宙人のようです。でも、こんな風に人のために何かをしようと、一生懸命な若い子がいる。みんな本当は人のためになりたいんです。日本の未来は大丈夫ですよ」

その玉田は将来の就職について、「一つのところにはいないと思います」という。

「北広島から札幌にでてきたときもそう。札幌から東京にでてきたときにも新しい刺激を受けたんですね」

一つのところで、刺激をもらったら、新しい所にいきたい。

「だって、楽しくないですよね？　同じことをして一つの所にいるのは」

将来について「今はさがしているところ」という和田は、「今日のことを忘れてしまいたくない。一年後でもその日のことを思いだせるような、そんな仕事がしたいですね」と目を輝かせる。

玉田は今、大学の授業で、進路に悩む中高生に、目標を与える方法を研究しているという。

「やってみればいい。何でもありだよ、世の中は、というのを発信しているんです」

英国へ留学する気はなくなった。「東京には何かやろうとすれば、いくらでもチャンスがあるから」

「楽しいこと」を追いながら、未来の夢を語る彼女たちからは、世のオジサンたちのように不景気を嘆くセリフは一つも聞かれなかった。

（豊川雄之）

＝敬称略

プロジェクトの中心となった玉田さん（左）と和田さん（右）。今度は玉田さんの〝故郷〟札幌でのプロジェクトを計画している

メリープロジェクト　グラフィックデザイナーの水谷孝次が主宰する「人にメリー（幸せ）の輪を広げよう」というプロジェクト。阪神淡路大震災の被災地や、米中枢同時テロの傷跡が残るニューヨークなどの町中で、人々の笑顔の写真を展示するなどの活動を行っている。ゴミ拾いは昨年夏から、ボランティアの若者を中心に六本木や渋谷などで行われている。